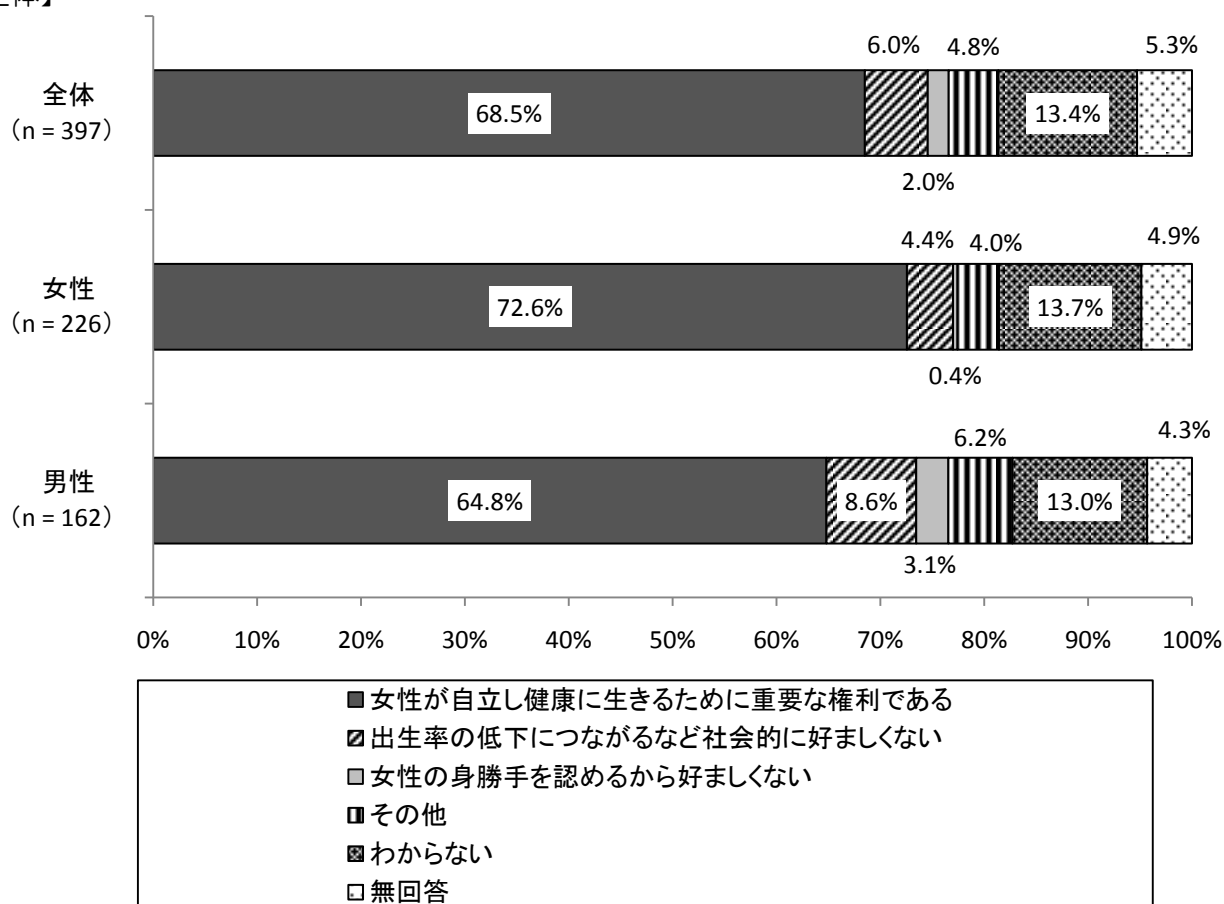


問 15 「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（\*）」についておたずねします。

女性にとって妊娠、出産、避妊、中絶などの選択は、自分自身の健康や人生設計に大きく影響します。こうした性に関する自己決定権について、あなたはどのように考えますか。（〇は1つ）

【全体】



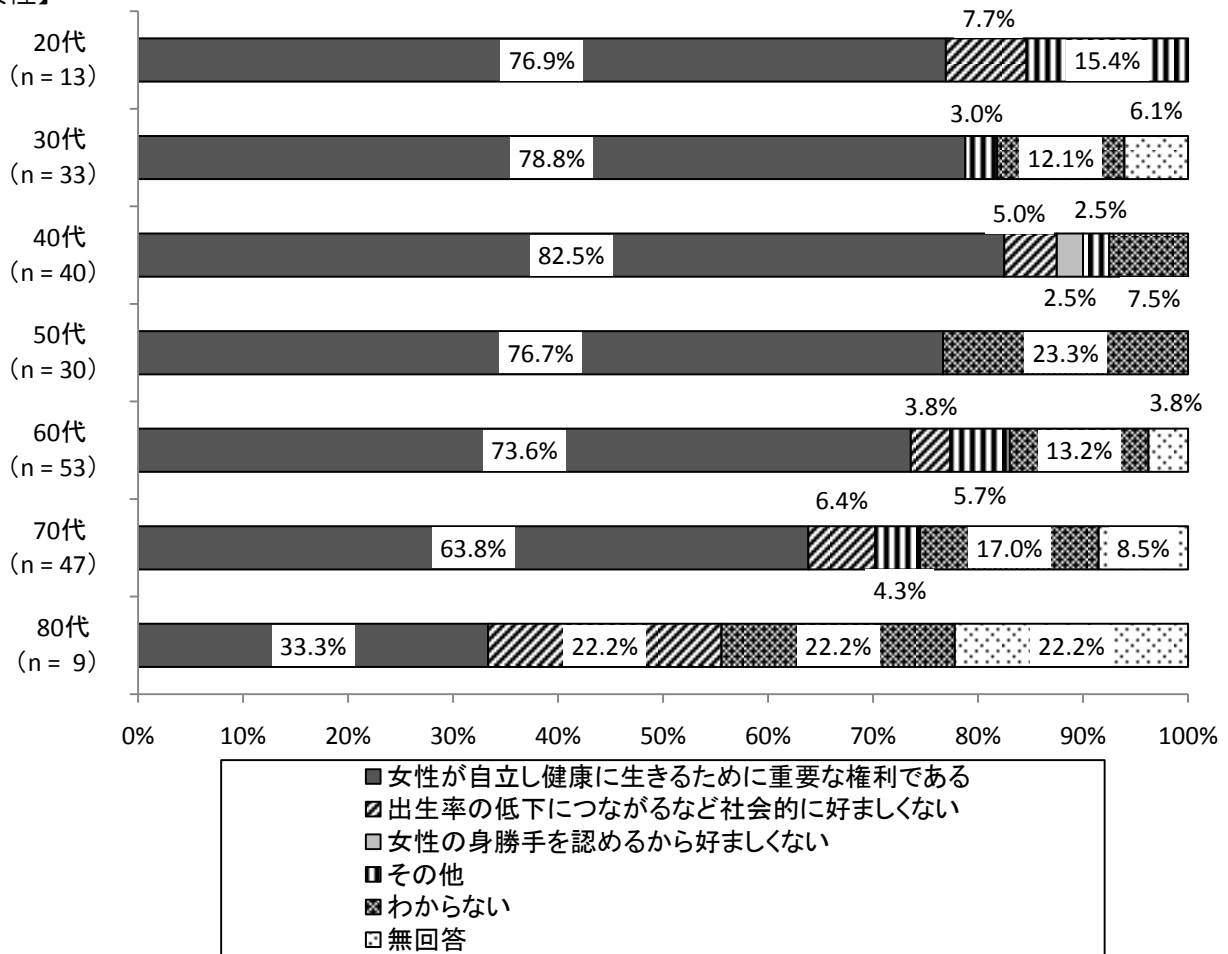
全体で見ると、「女性が生きていくために重要な権利である」と回答した人が68.5%を占めている。性別で見ると、女性は72.6%に対し、男性は64.8%と女性に比べると割合が低い。

年代別では、どの年代も重要な権利だと回答する割合が高く、女性は40代（82.5%）をピークに女性の重要な権利だと回答している。「好ましくない」の割合は、80代女性、50～70代男性が高い。

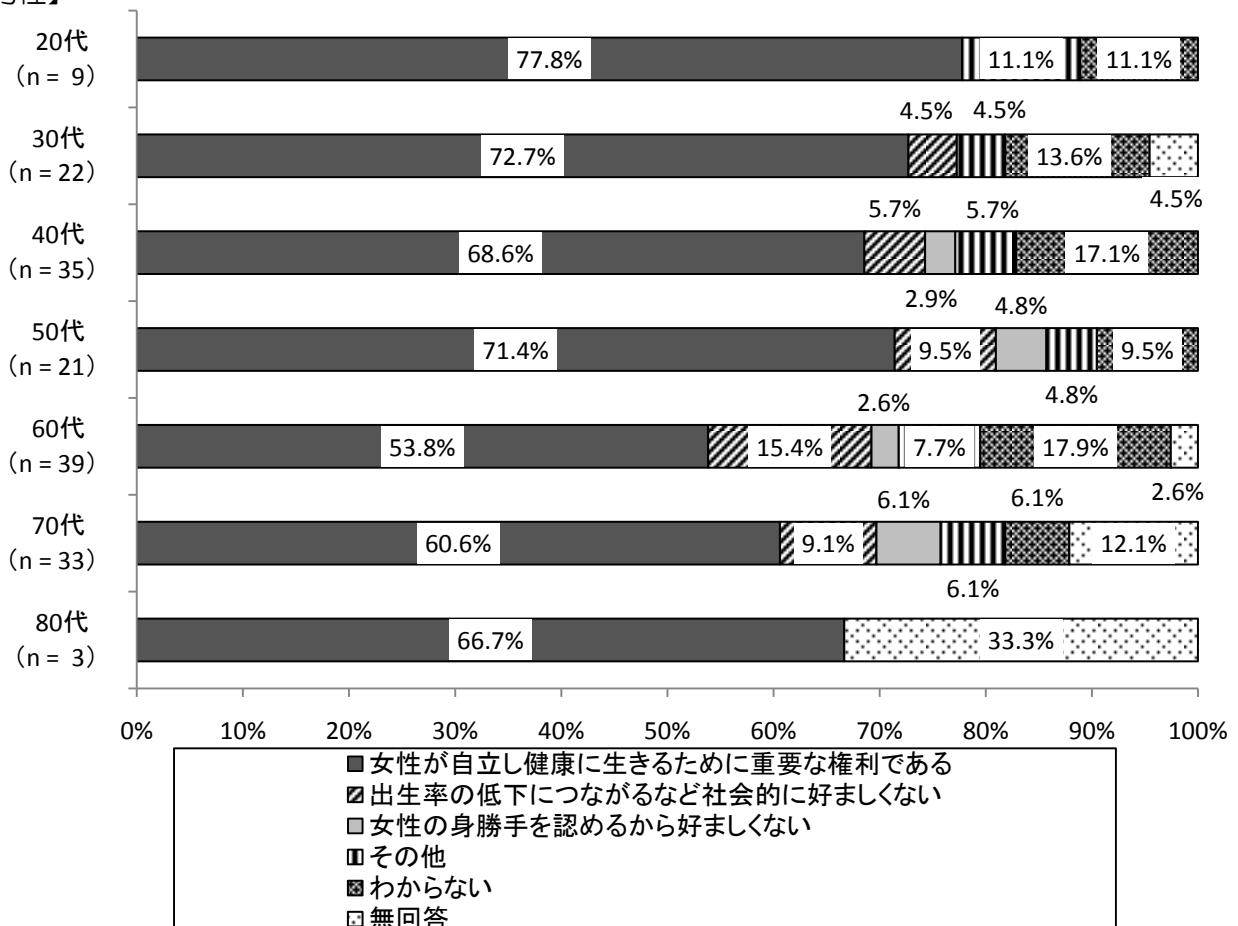
（\*）リプロダクティブ・ヘルス/ライツ：性と生殖に関する健康と権利。女性の人権と性の視点から妊娠・出産・避妊や思春期・更年期など生涯を通じて健康を保障し、子どもを産むかどうか、いつ何人産むかについて、女性自らの意思で選択できる自己決定権をいいます。

【性・年代別】

【女性】



【男性】



<「その他」の回答>

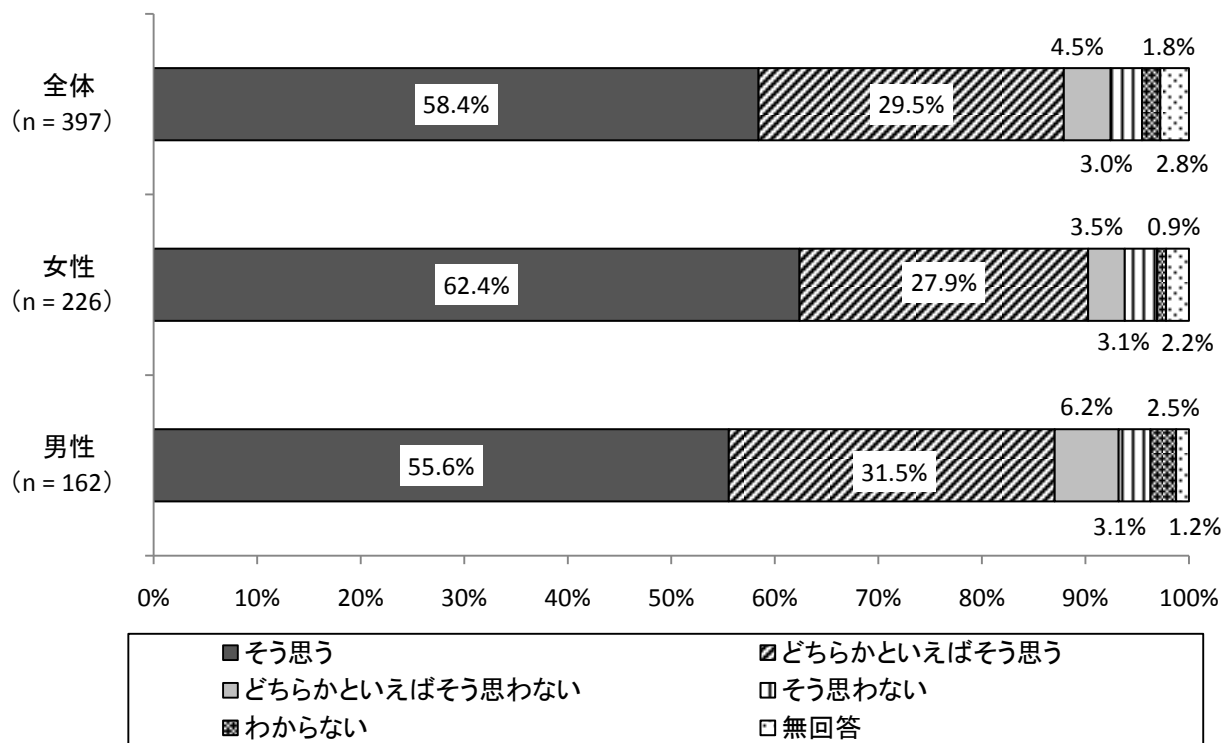
- ・女性の自立というより、女性だけで決めず、相手と一緒に決める、子ども本位に決める事が良い。
- ・自分の思いで変えられるが、軽い気持ちで中絶する事が増える事はよくない。
- ・家庭、夫婦で良く話し合って決めれば良い事、一人では出産できないし、育てられないのだから、権利を主張しては良い家庭はできません。
- ・性についての教育をもっとすべきだと思う。
- ・権利は認めるが、義務の教育も必要。現在の日本国民は権利ばかりを主張している気がします。
- ・上記1「女性が自立し健康に生きるために重要な権利」は、メリットとして考えられますが、夫婦の場合、妻である人の権利が優遇(?)される考えはいかがなものかなと思います。
- ・女性にしか子どもを産み育てる能力はそなわっていないのです。
- ・パートナーと話し合うべき。
- ・子どもを産まれたら、社会が面倒をみる仕組みが必要。
- ・できれば2人で考え、育児、仕事が両立できるのがベストかと。
- ・身近な人と良く相談し、将来も見据えた選択をすること。
- ・結果を理解した上での権利であれば重要な権利である。
- ・男、女で相談しながらが好ましい。
- ・あまりにきれい事過ぎて現実的ではない。
- ・人それぞれ、他人がどうこういうことじゃない。自分で考え、決定し、当事者であることが大切。
- ・夫婦間で話し合いをし、互いに合意した上で判断すべき。
- ・女性の意思だけでなくパートナーの意思も重要。
- ・個人の自由。
- ・権利の前に意識付けと環境整備。



問 16 最近では、家族のあり方が大きく変化しており、結婚や出産などに対する考え方も多様化しています。次にあげる考え方について、あなたはどのように思いますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

(1) 結婚や出産をする、しないは個人の自由である

【全体】



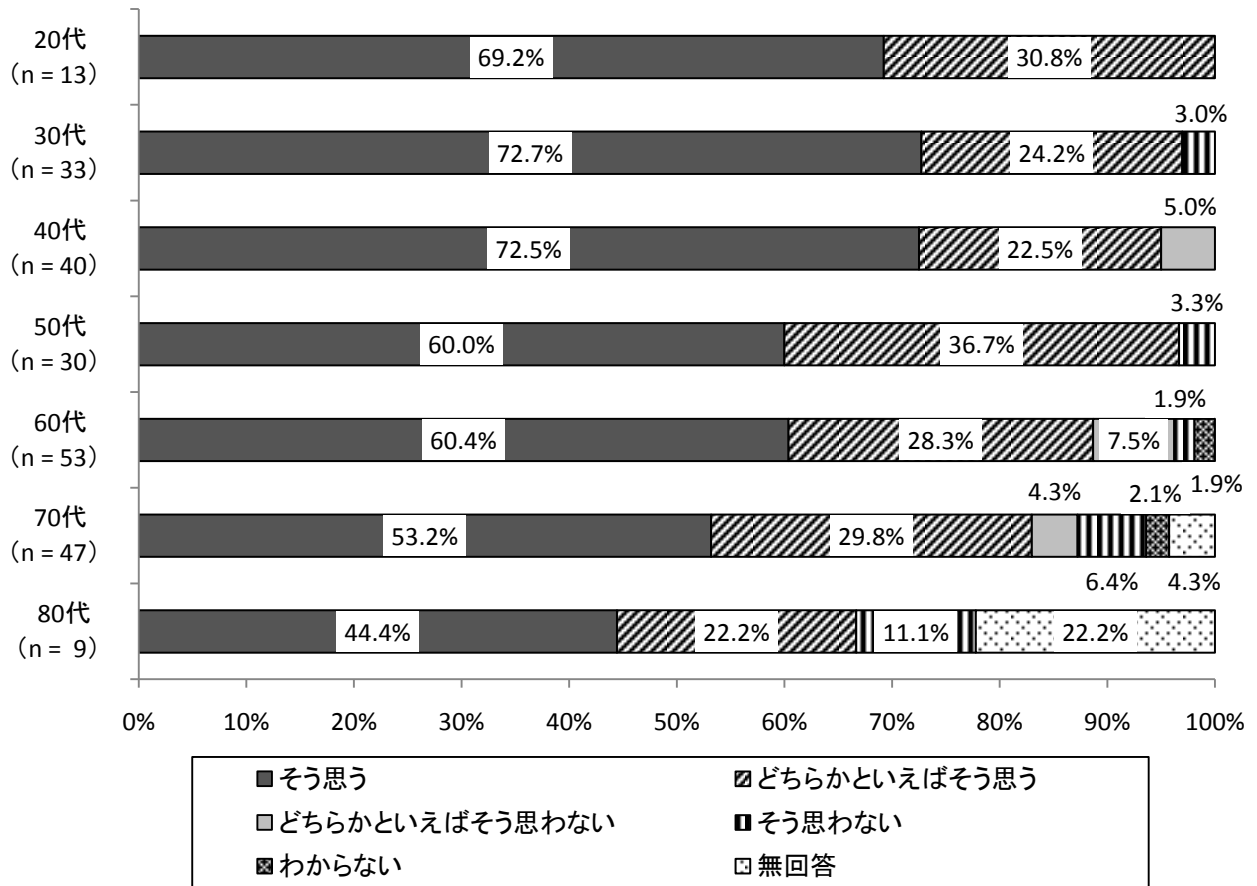
<結婚や出産をする、しないは個人の自由である>については、全体、性別ともに「そう思う」という回答が60%前後を占めている。また、「どちらかといえばそう思う」を合わせると約90%に達する。

年代別にみると、男女とも若い世代ほど「結婚や出産をする、しないは個人の自由である」と考えている割合が多く、70代からはその割合が比較的低くなっている。

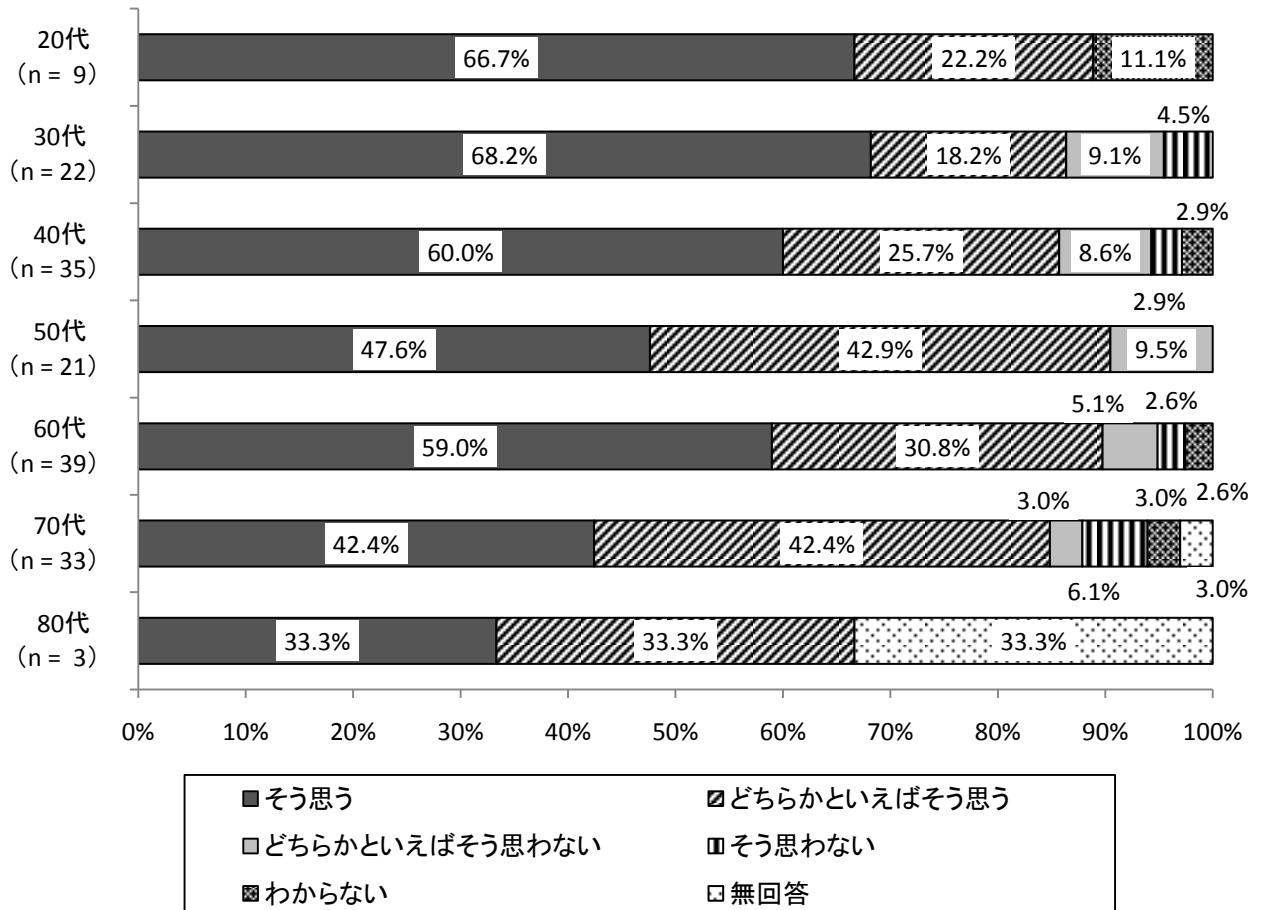
平成19年度に実施した意識調査でも、全体で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると88.9%であり、男女をみても、今回の調査とほぼ同じ結果で、考え方の変化はなかった。

【性・年代別】

【女性】

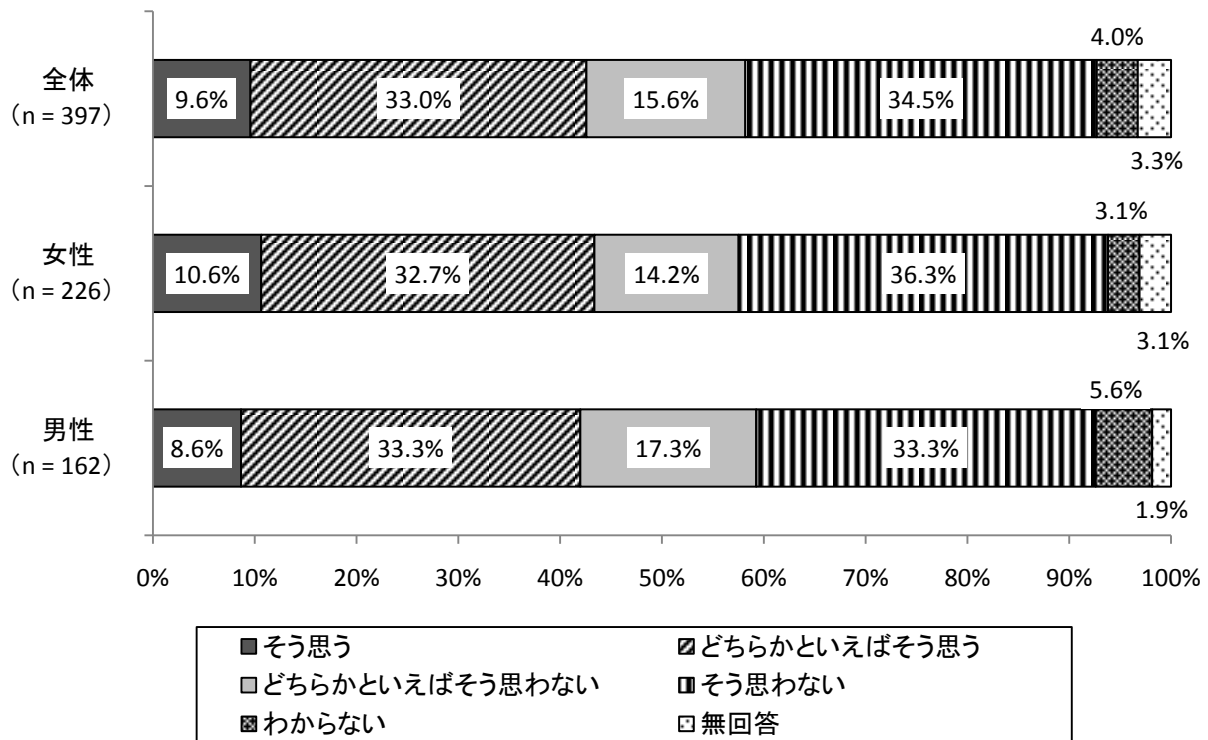


【男性】



(2) 夫は仕事を、妻は家事・育児を優先したほうがよい

【全体】



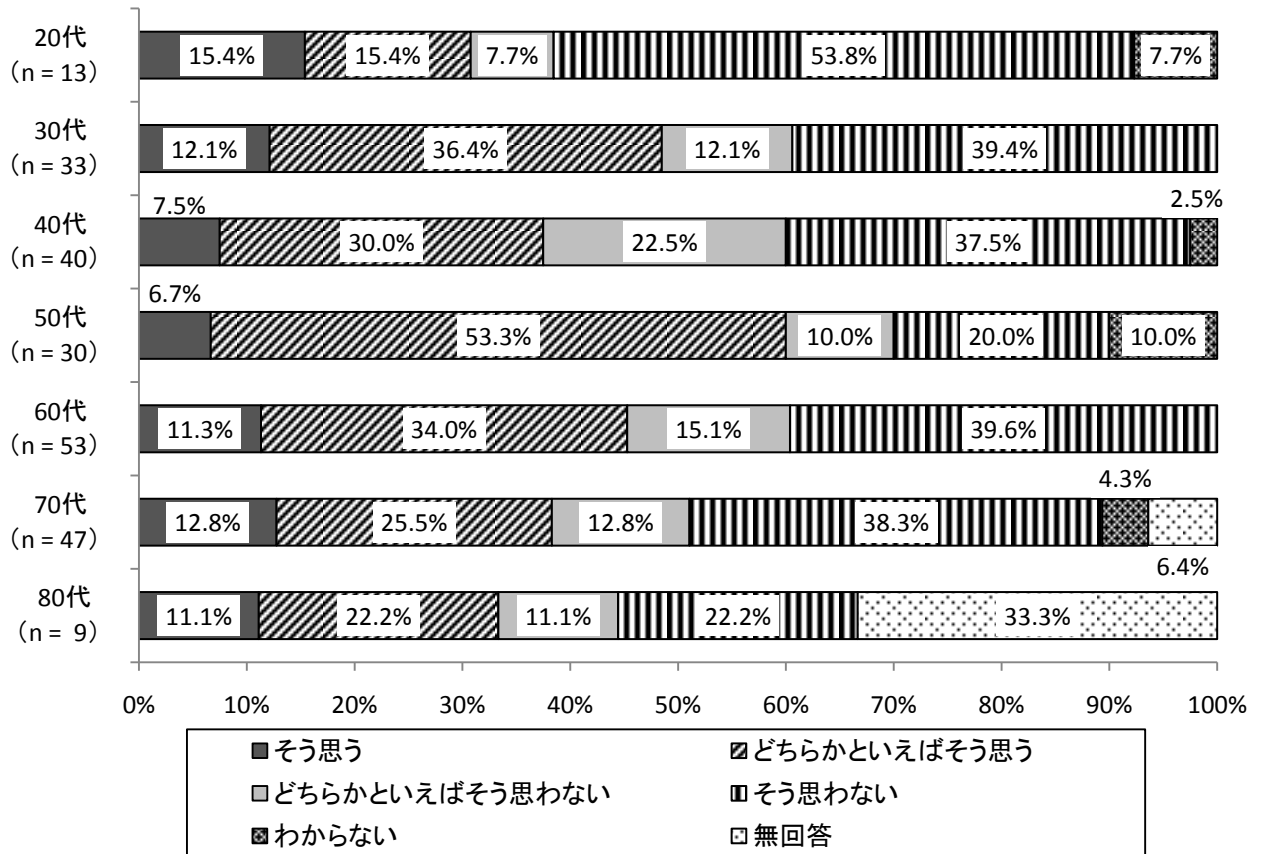
<夫は仕事を、妻は家事・育児を優先したほうがよい>については、全体、性別とも「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の否定意見が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の肯定意見を上回っている。

年代別にみると、80代では男女とも否定意見と肯定意見が半数ずつとなったほか、男女とも残りのほぼ全ての年代で否定意見のほうが多かった。ただし、50代女性のみ肯定意見が60%となっている。

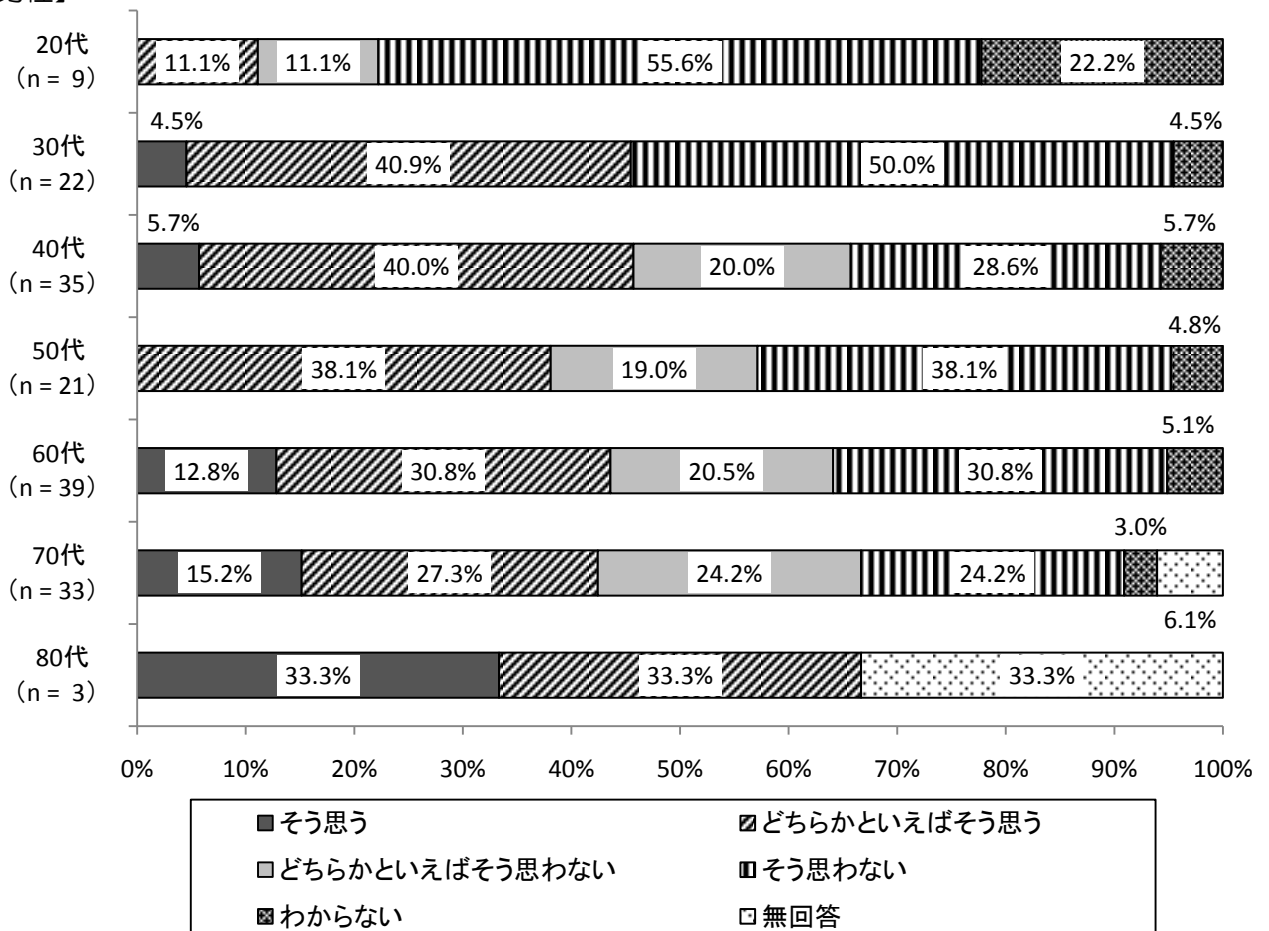
平成19年度に実施した意識調査では、男性においては肯定意見の方が多かった（「そう思う」18.0%「どちらかといえばそう思う」41.0%）ことから、少しずつではあるが男性の意識が変わってきている。

【性・年代別】

【女性】

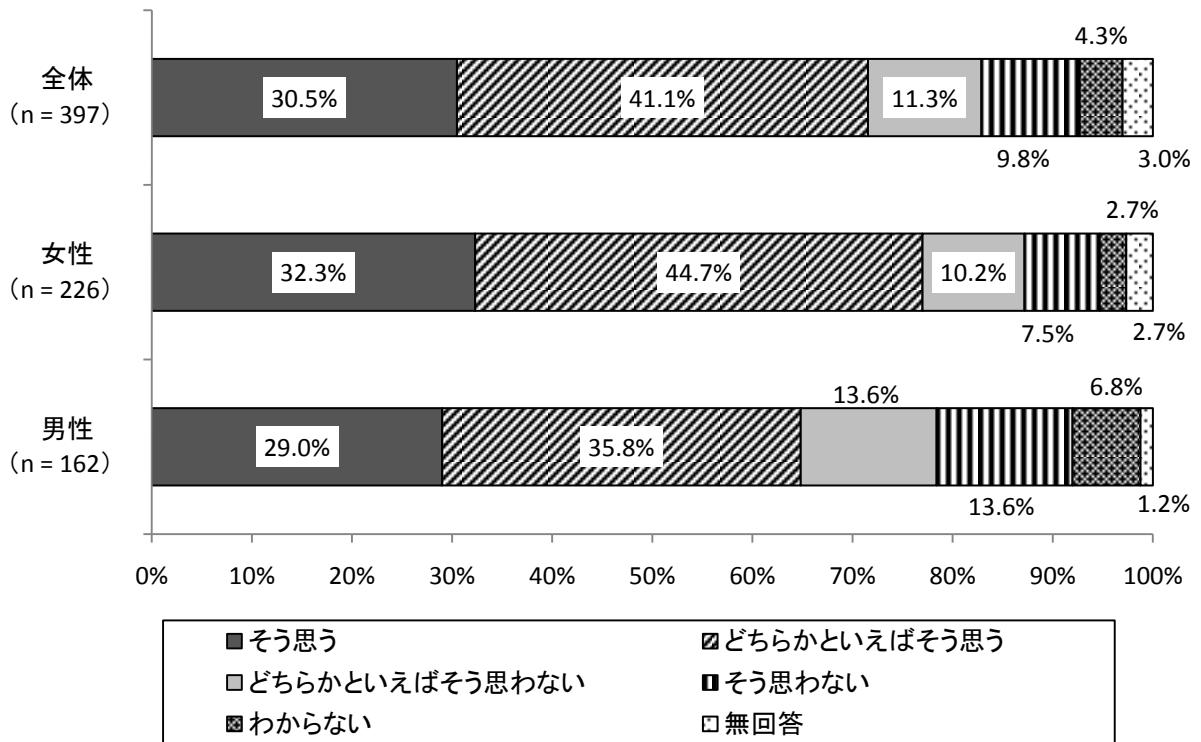


【男性】



(3) 結婚生活に我慢できなければ、離婚もやむを得ない

【全体】



〈結婚生活に我慢できなければ、離婚もやむを得ない〉については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が全体で71.6%、性別では、女性が77%、男性が64.8%と女性のほうが離婚もやむを得ないと回答した人が多かった。

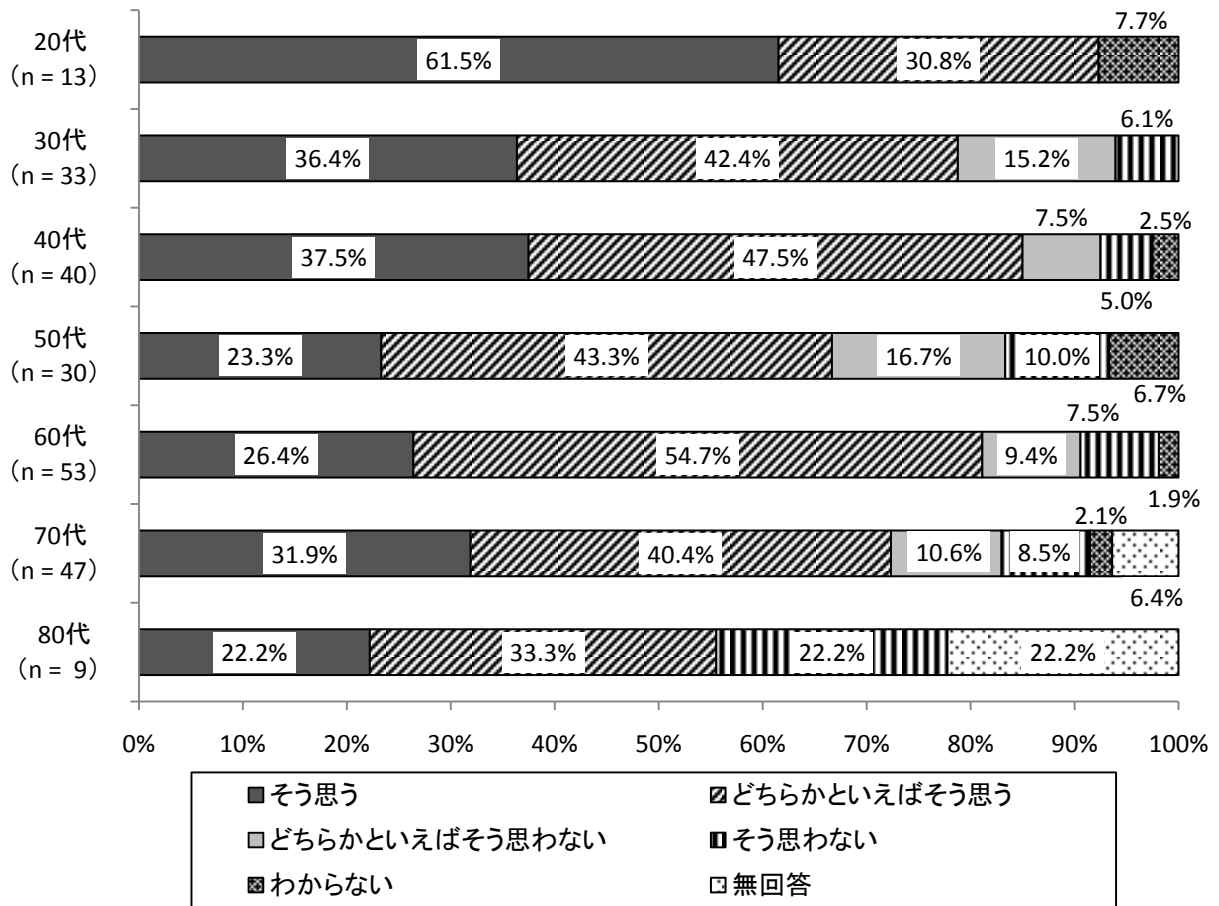
年代別では、20代女性で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が92.3%と最も割合が高く、反対に、80代男性の合計は33.3%、次いで70代男性は39.4%とやや低かった。また、「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」の合計については、70代男性では54.5%、次いで80代男性が33.3%で、高齢の男性は、離婚せずに我慢する方がよいと考える傾向が他の年代に比べて高いことがわかる。

平成19年度に実施した意識調査では、女性は「そう思う」が17.3%であったが、今回は15ポイントも上がっており、男性も14.9%であったが、今回は14.1ポイントも上がっている。

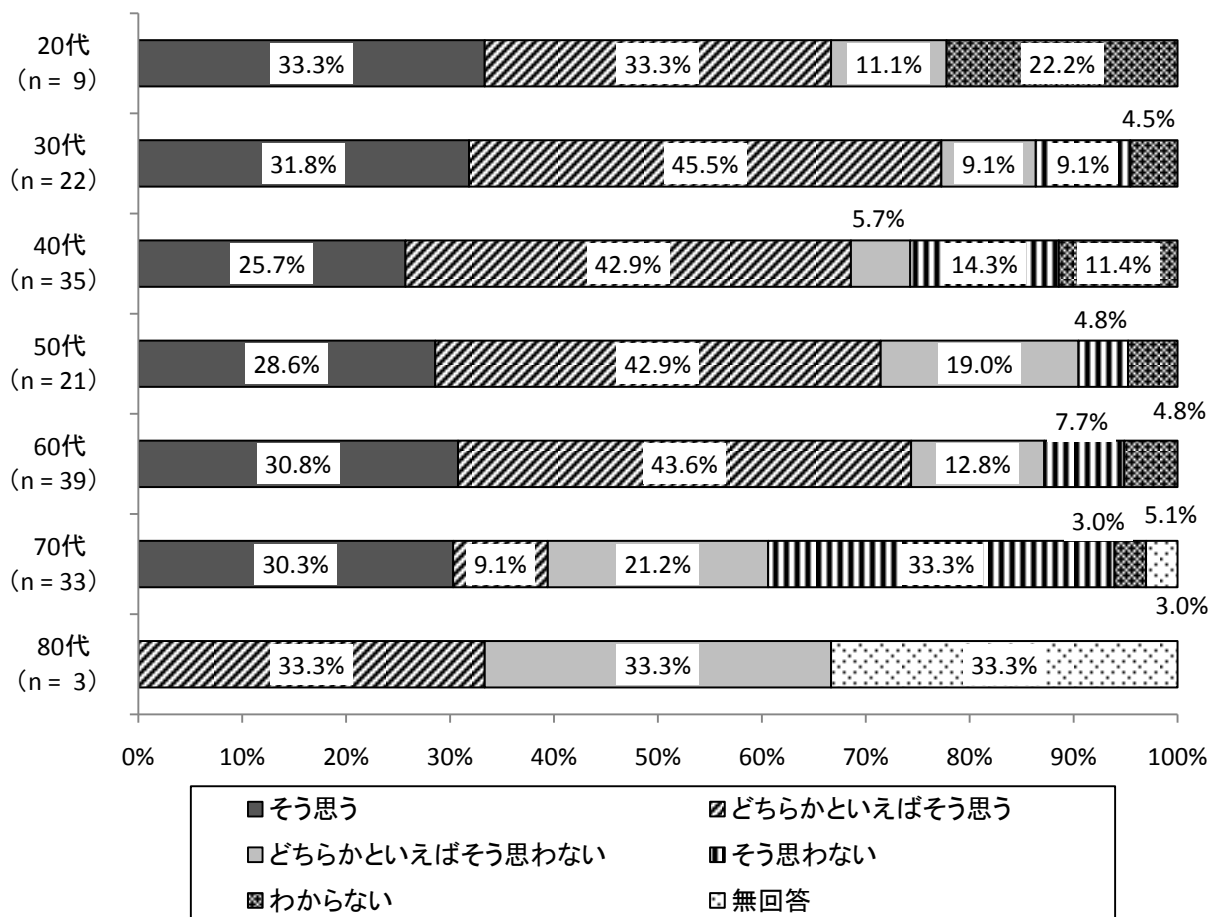


【性・年代別】

【女性】

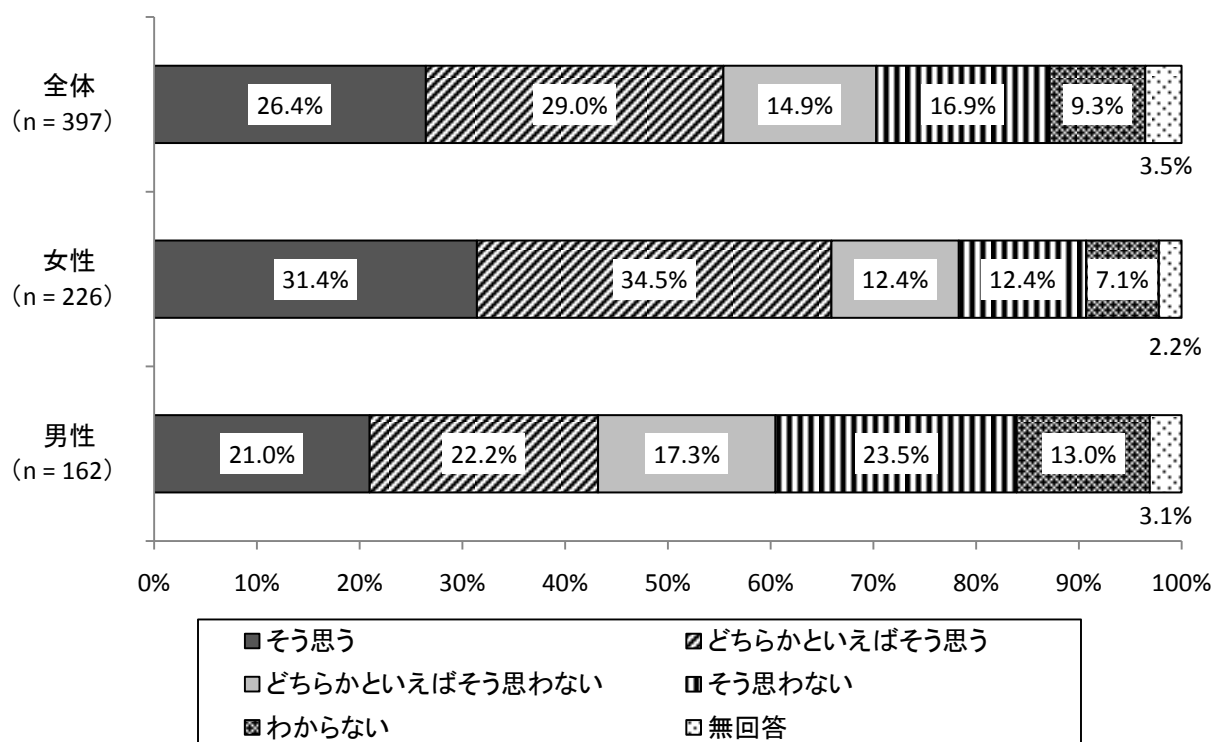


【男性】



(4) 一般に、今の社会では離婚すると女性のほうが不利である

【全体】



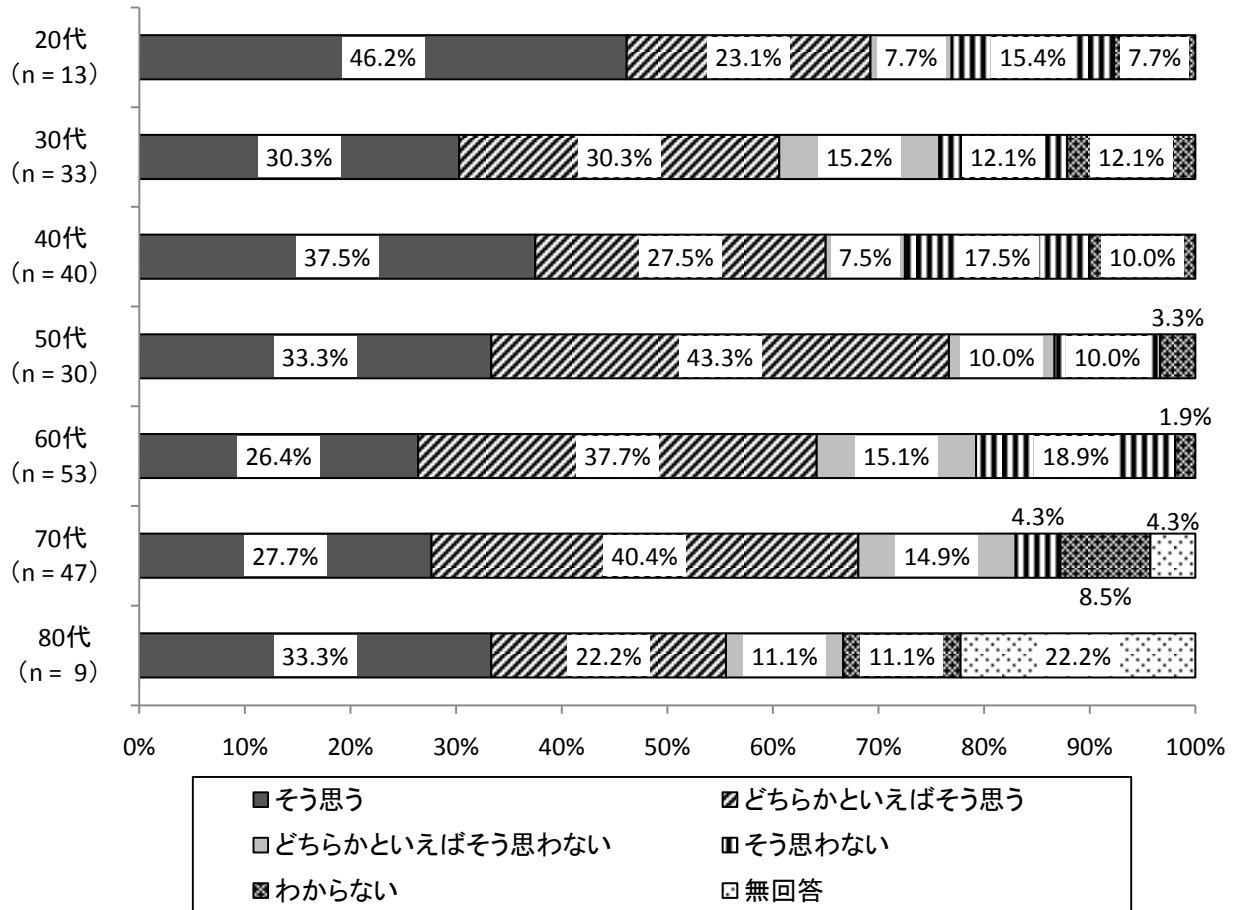
〈一般に、今の社会では離婚すると女性のほうが不利である〉については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人が全体で 55.4%、女性が 65.9%、男性が 43.2%で、男性よりも女性の方が「女性の方が不利である」と考えている傾向が高い。

年代別にみると、女性では、どの年代も比較的同じくらいの割合が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答しているが、男性では 20 代男性が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した人はいなかった。

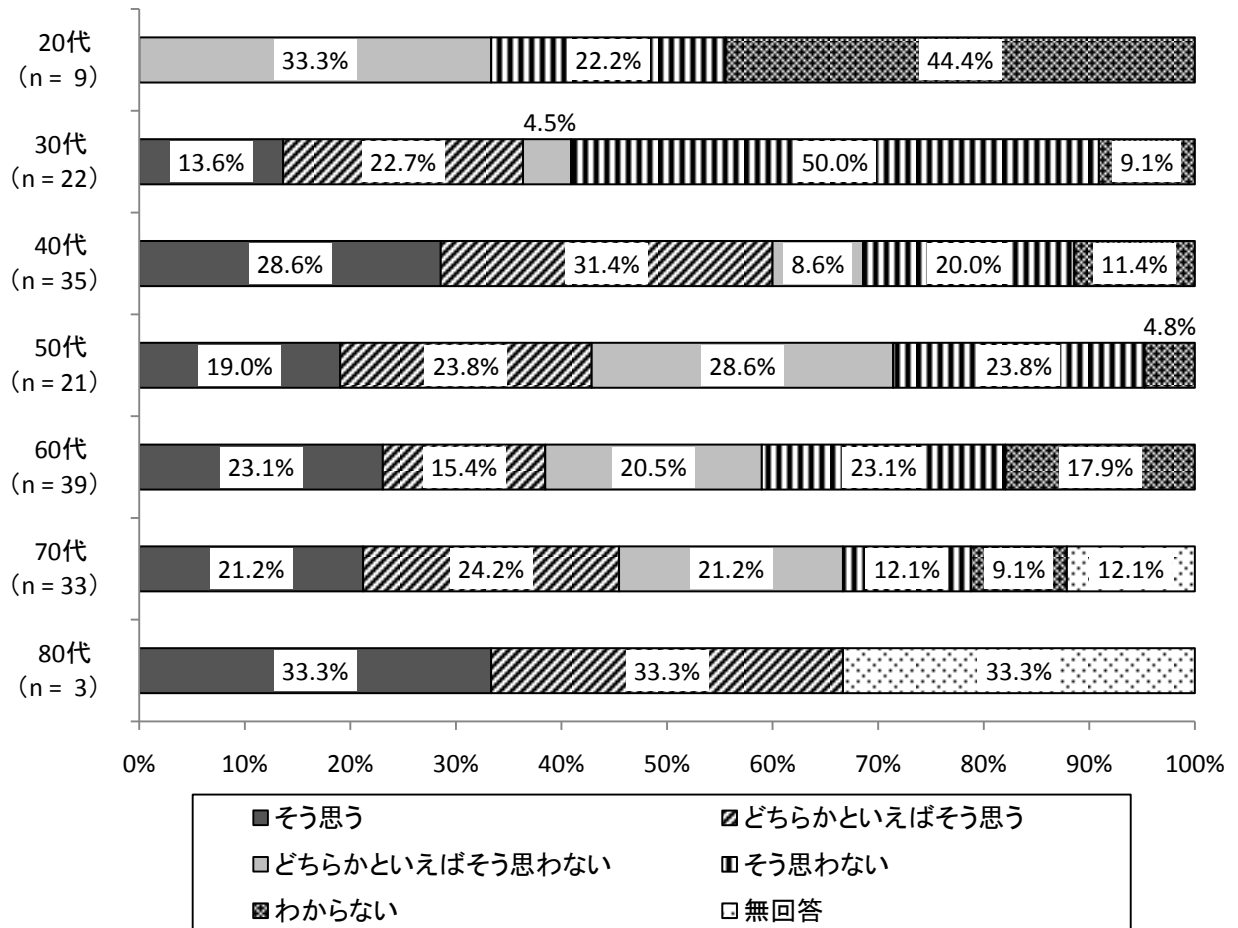
平成 19 年度に実施した意識調査と比較すると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」答えた合計が、女性で 65.3%から 0.6 ポイント上がり、男性は 47.8%から 4.6 ポイント下がっている。

【性・年代別】

【女性】

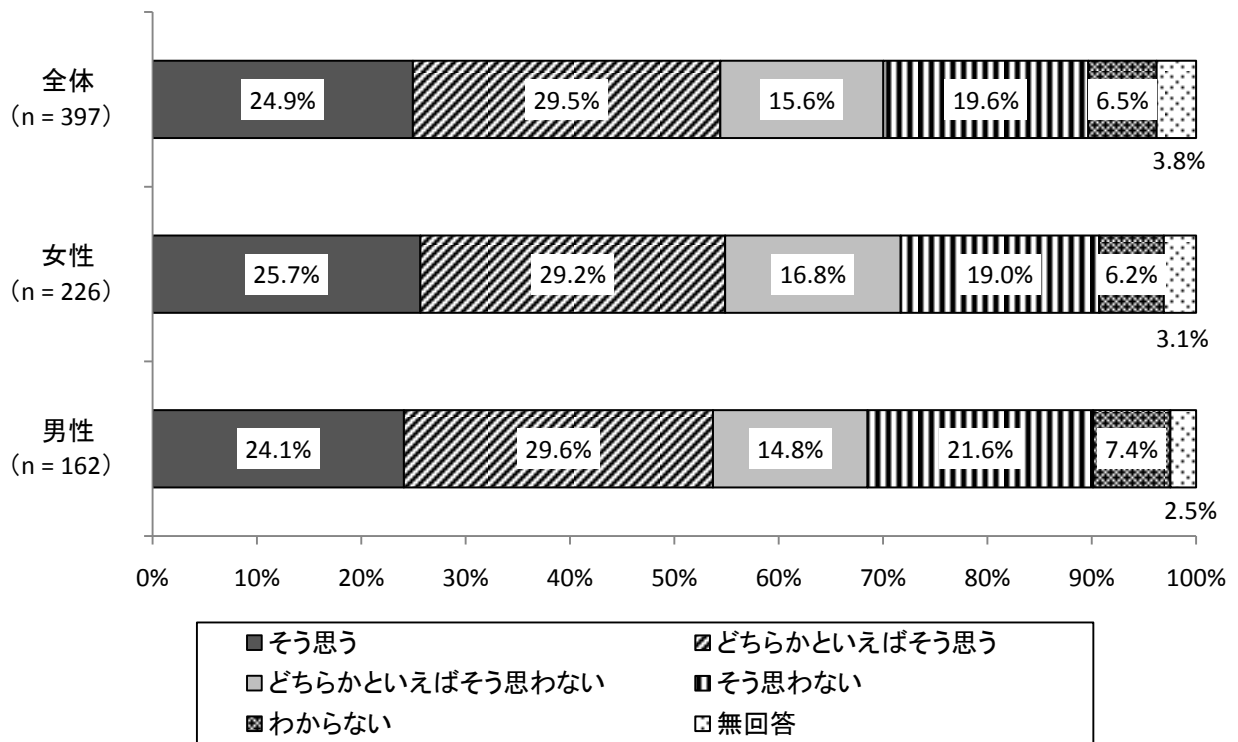


【男性】



(5) 未婚の女性が子どもを産み育てるのも1つの生き方である

【全体】



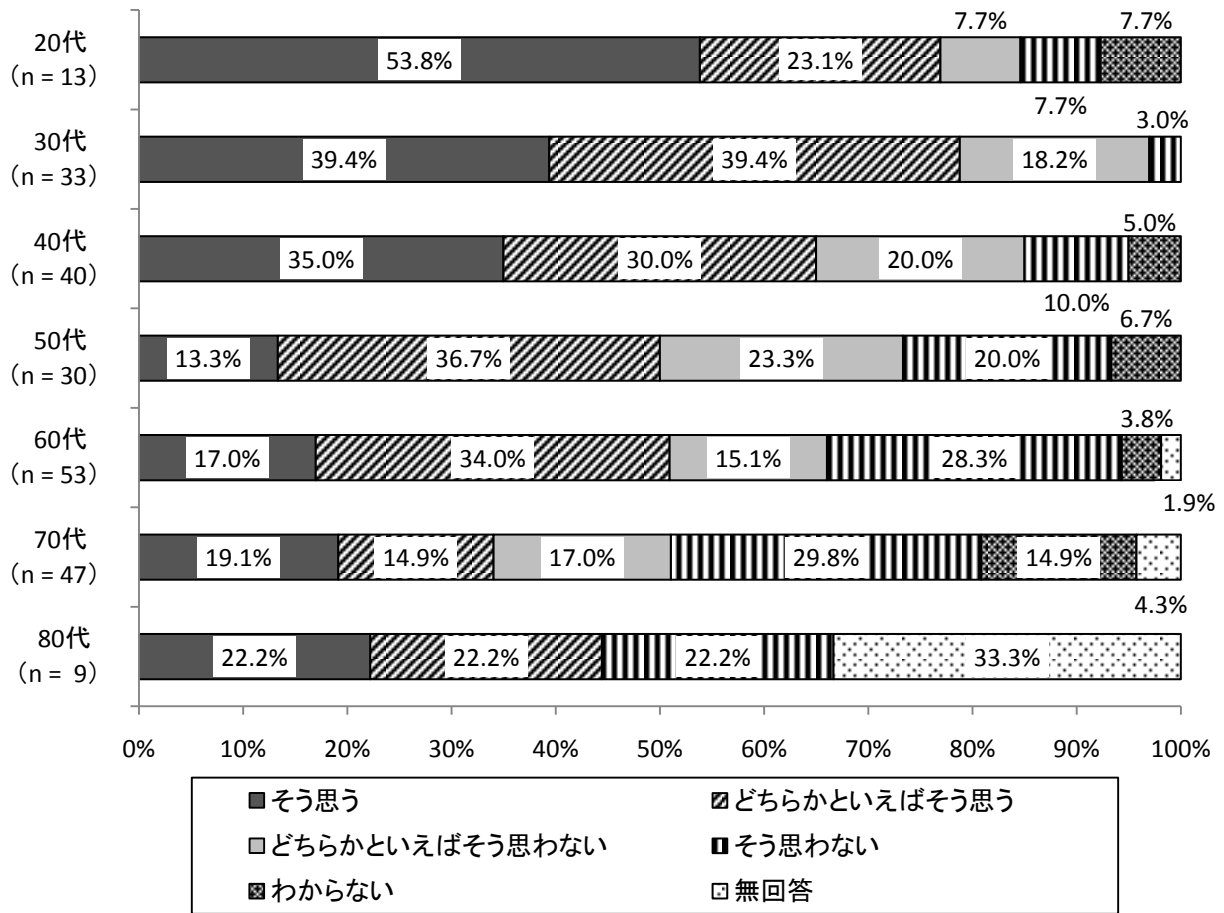
〈未婚の女性が子どもを産み育てるのも1つの生き方である〉については、全体、性別とも「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人が約50%、「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」が約35%で性別での意識の差は見られなかった。

年代別にみると、女性は、20～40代の若い年代で肯定意見が多くなっている。男性は、20代、40代、50代で肯定意見が60%を超えているが、30代男性では54.5%と30代女性と比較すると割合が低い。また、50代男性と60代、70代の男女で約30%が「そう思わない」と回答している。

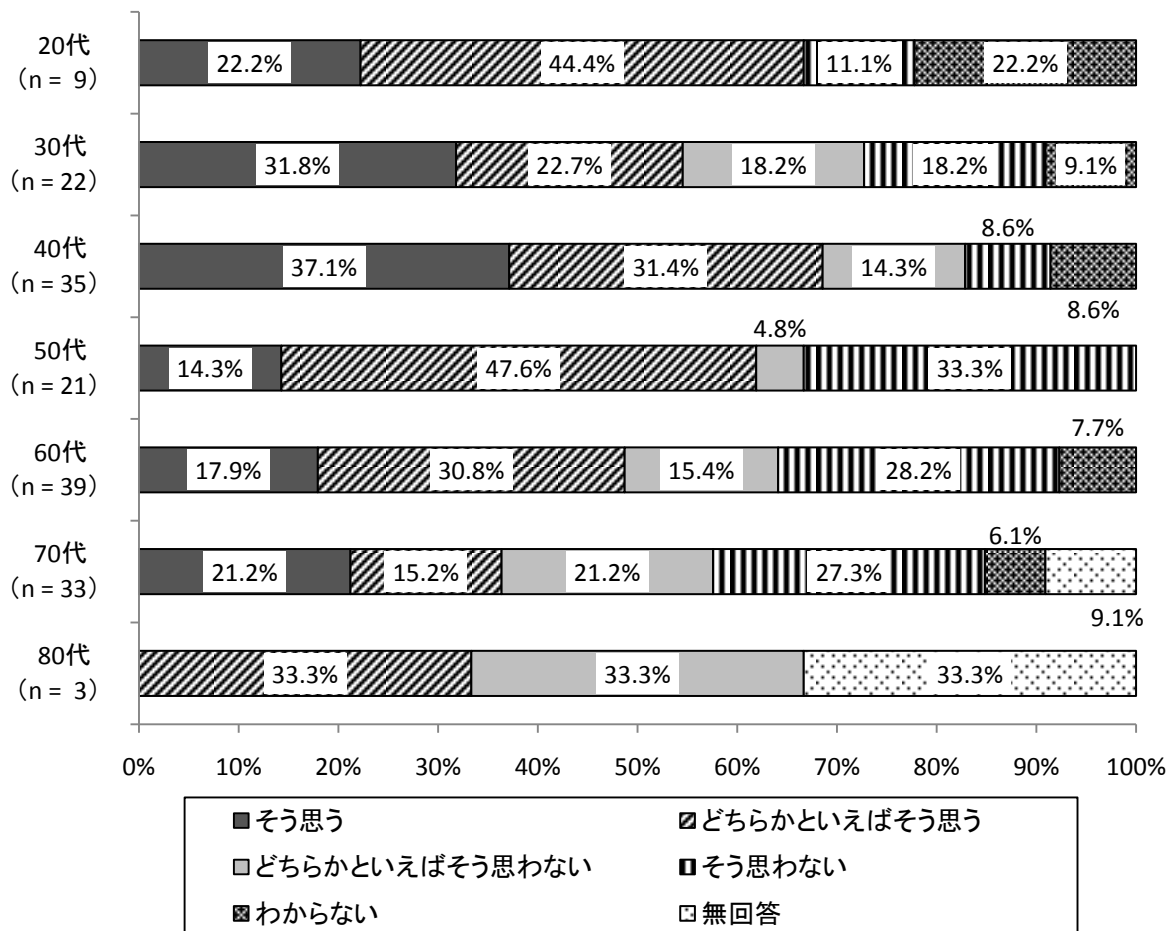
平成19年度の意識調査では、全体で「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」が51.1%で、「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」が37.0%と、今年度とほぼ同様の結果であった。

【性・年代別】

【女性】

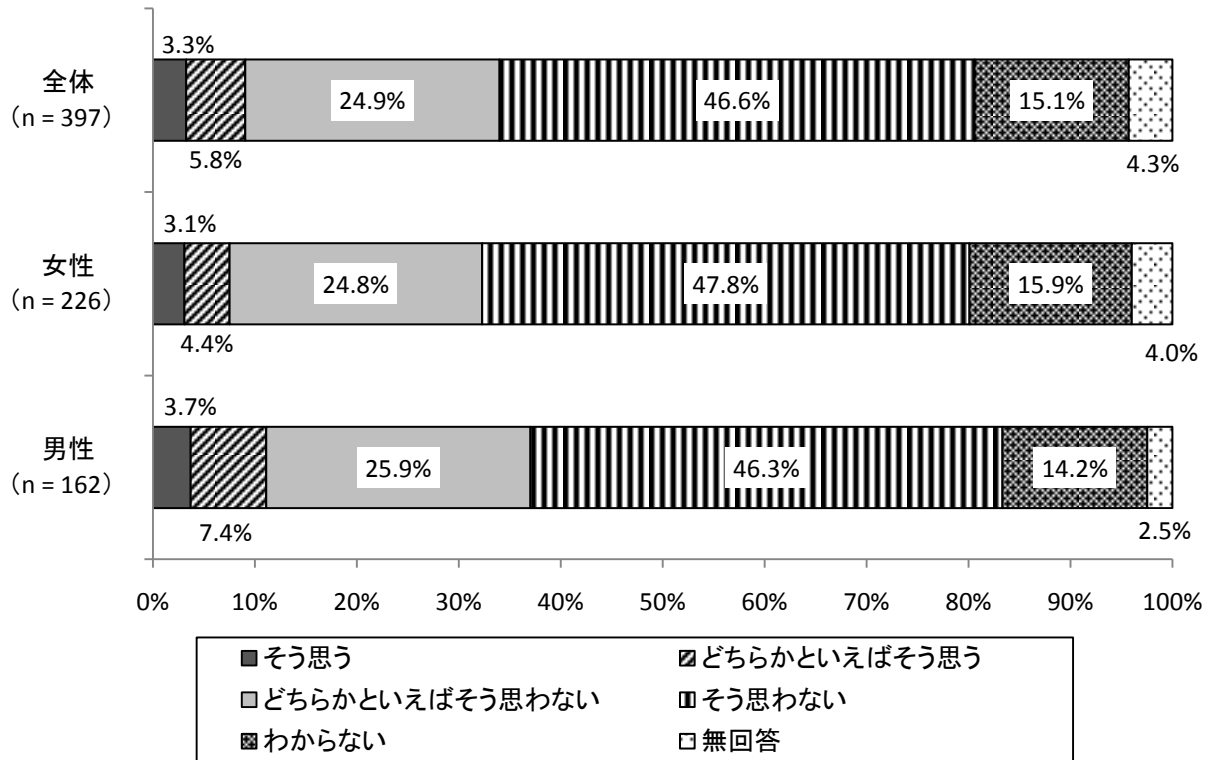


【男性】



(6) 結婚や出産よりも、仕事を優先し続けていきたい

【全体】



〈結婚や出産よりも、仕事を優先し続けていきたい〉については、全体、性別ともに、「そう思わない」と40%以上が回答しており、「どちらかといえばそう思わない」と合わせると否定意見が70%を超えている。

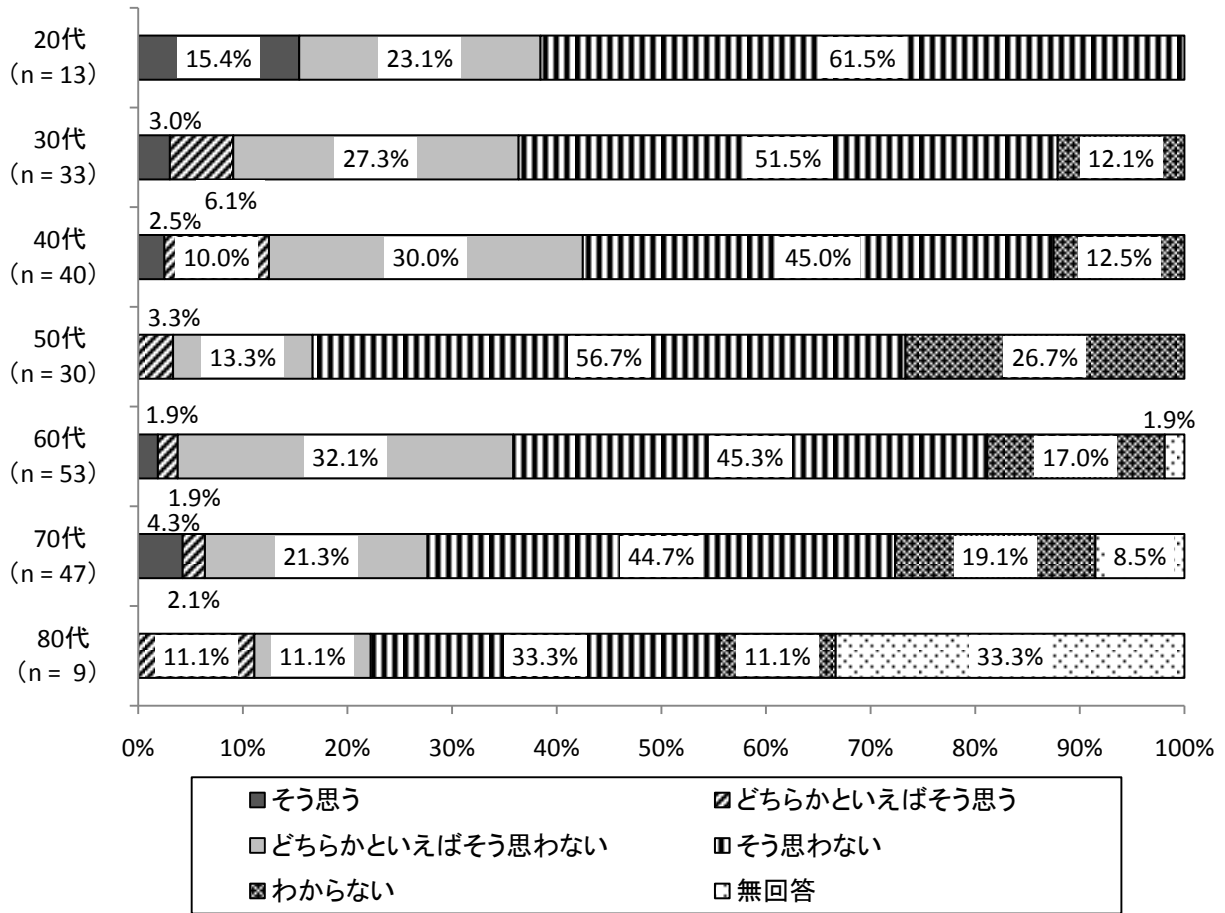
年代別にみると、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計が女性は20代が最も多く84.6%、最も少ないのは80代で44.4%となっている。また、男性は、50代が85.7%と全体でも最も多く、女性と同様最も少ないのは80代の33.3%である。

反対に、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の肯定意見の合計が最も多かったのは、80代男性の33.3%で、次いで20代女性の15.4%となっている。

性別・年代を問わず、仕事よりも結婚や出産などの生活を優先したいと考えている人が多数であることがわかる。

【性・年代別】

【女性】



【男性】

